

スリーアール

3Rのスズメ。



2017
第19号
夏

伏見の濠川(ほりかわ)

特集

～京都の玄関口「京都駅ビル」の廃棄物再資源化作戦～ 【京都駅ビル開発株式会社】

▲ 京都駅ビルは、開業20年

京都駅ビルは、1997年9月の開業から今年で20年を迎えます。1997年といえば、その年の12月には、京都国際会議場で「地球温暖化防止京都会議(COP3)」が開催されました。京都駅ビルでは、駅ビル内の各店舗の皆様とともに、温暖化防止対策はもとより、廃棄物対策についても熱心に取り組まれてきました。今回は京都駅ビル開発株式会社の管理部保安課の野口正信課長、鈴木弘さまと総務課の稲積正人課長代理に広い駅ビル内をご案内いただきお話を伺いました。

京都駅ビル全景



▲ 駅ビルからはどんな廃棄物がでてくるのか

読者の皆様方もご存知のとおり、駅ビルには劇場やたくさんの飲食店があり、食べ残しや調理くずなどの食品残渣や厨房からの雑芥などの一般廃棄物が駅ビル全体の6割ほどを占め、また、飲食店からの廃食用油や缶類、ビン類、廃プラスチックなどの産業廃棄

物に分類されるものは4割程度あります。また、近年の観光旅行者の増加に比例するように、ここ数年間の駅ビル内での一般廃棄物、産業廃棄物トータルの発生量を数値的に見せていただくと、平成26年度が年間約194トン、28年度は約197トンと、やや増加傾向にあるようです。

▲ 廃棄物の再資源化の取組は如何に

駅ビルでは、各店長との連絡会議を頻繁に実施して、適正な分別や駅ビル内の廃棄物集積所への持ち込み方法などを徹底した上、毎日各店舗ごとの廃棄物の種類別に計量してフィードバックするなど、廃棄物の定量的で精緻な管理が行われています。そして毎日午前中には必ず処理業者に引き取られています。また、当初は日々の管理の中で、食品廃棄物の中にたばこの吸い殻など分別が不十分なものが見られることもあり、その都度店舗の皆様にご注意喚起してきた結果、現在は徹底した廃棄物管理が行えるようになったとのことで、「やはり駅ビルでは、各店舗の皆様との連携プレイの中でしっかりした取組が進められる」と野口課長は仰います。



廃棄物保管場所(食品廃棄物は、別な場所で低温保管されている)

次ページへ続く

contents

特集

～京都の玄関口「京都駅ビル」の廃棄物再資源化作戦～
● 京都駅ビル開発株式会社

下水汚泥を資源に

● 京都府流域下水道事務所 洛西浄化センター

その他

◆ 京都府3R技術開発等支援補助事業よりお知らせ
◆ 事案に学ぶ排出事業者の責務 第6回
排出事業者責任に基づく措置に係る
チェックリスト(環境省)

▲ 食品廃棄物は全量飼料化

このような連携した取組を進めてきた結果、駅ビル内の廃棄物の発生量は増加傾向にある中、食品系の廃棄物については、28年度の再資源化率はほぼ100%まで向上しています。食品廃棄物の再資源化は、委託先で中間処理の後、全量飼料として利用され、また、廃プラスチックや廃食用油等の廃棄物も、衛生上等の理由から焼却処理をしている雑芥、埋立処理をしている割れ陶器類等を除いては、すべてが再生利用されているとのこと。

▲ 環境マネジメントシステム(KES)による廃棄物の管理

駅ビルでは、KESステップ2SRとステップ2Enを取得し、このような店舗の皆様と連携した廃棄物管理をシステム化しており、これからは高水準のリサイクルを継続的に実施していくとのこと。「3Rの取組はできることはほとんどやってきているので、もはや、各店舗の皆様には食器を一層丁寧に扱ってもらって、割れ陶器

類を減らしていく努力なども必要になってきている」と皆さん笑いながら語っておられました。



話をお聞きした(右から) 稲積課長代理、野口課長、鈴木さま

京都駅ビル開発株式会社 総務部総務課

所在地: 〒600-8216

京都市下京区塩小路通烏丸西入 新京都センタービル8F

電話: 075-361-4394

特集

下水汚泥を資源に [京都府流域下水道事務所 洛西浄化センター]

私たちの毎日の生活や事業活動から出る排水は、下水道によって浄化されますが、その時に残るのが「下水汚泥」。そのままでは処理に困る厄介者ですが、今、地球温暖化対策にも役立つ「資源」として注目されていることをご存知でしょうか？

下水汚泥は、下水処理場で汚水処理した時に残る汚れや微生物の固まりです。この貴重な有機資源を石油や石炭に代わる発電用の燃料として活用しようという動きが全国で始まっています。カーボンニュートラルな下水の有機資源、地球温暖化対策としても有効な事業が、ここ洛西浄化センターでも、平成29年4月から「下水汚泥固形燃料化事業」としてスタートしました。今回は、この事業に取り組む、桂川右岸流域下水道洛西浄化センターを訪問して、市田所長、三好施設管理室長、川戸副室長にお話をお伺いしました。



固形燃料化施設

京都府内最初の流域下水道

今回お伺いした洛西浄化センターは、京都府における最初の流域下水道であり、桂川右岸流域の3市1町(京都市(南区、西京区、伏見区)、向日市、長岡京市、大山崎町)を対象として、汚水を処理して水質改善に努め、生活環境を保全する役割を担っています。

昭和54年に供用開始以来、下水道の普及にともない下水汚泥の発生量は年々増加し、現在では汚水処理後の脱水汚泥は1日約70t発生するとのこと。減量化するために、これまで焼却処理を行い、発生した焼却灰の一部は、セメント原料として使用され、

残りは廃棄物として埋立処理してきました。しかし焼却処理過程において多くの温室効果ガスを排出することや、焼却設備の老朽化による更新などが課題となっていました。

汚水処理工程とのエネルギー循環

今回、同センターが導入した「固形燃料化施設」は、これまで焼却し廃棄物として処分していた下水汚泥を、火力発電所の代替燃料として利用することで資源の有効活用と地球温暖化防止に貢献するシステムです。維持管理・運営は専門会社(株)バイオ